

活動名 福島と広島の子供たち 夢のコンサート	団体名	福島と広島をつなぐ会
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 叶堂 恵子
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>福島第1原発事故で被災した福島県川俣町の子供たちのフォルクローレ演奏グループ「アミーゴ・デ・川俣」(齋藤 寛幸代表)14人を広島に招き広島の子供たちとの共演コンサートを行い交流を深める。コンサートでは、最初に齋藤代表が、「川俣町の復興へ向けての軌跡」と題して講演、「アミーゴ・デ・川俣」の子ども14人がケーナなどでフォルクローレ演奏を、広島市内からは安田小学校器楽部が歌や器楽演奏、なぎさ公園小学校「ドラム・コー」が和太鼓の演奏、広島少年合唱隊が復興をテーマにした歌でハーモニーを響かせる。また安田小学校は復興の象徴であるカンナを贈呈する。川俣町はフォルクローレが盛んで子供たちは4年生からケーナを授業で学習する。川俣町は計画的避難区域の南部「山木屋地区」を持ち、全村避難を余儀なくされた「飯館村」のとなりである。除染も進まず未だに外での活動の制約がある地域である。両県の子供たちが社会的な見聞を広げ、お互い頑張る姿を見ることで、優しく前向きに生きる心を培う。</p> <p>◆実施時期 2013年7月27日(土)13:30～15:30 アステールプラザ中ホール</p> <p>◆参加人数 一般観客224名 共演学校、団体72名、スタッフとボランティア33名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:329名</p>		



「復興の象徴」カンナの贈呈式
安田小学校からで「アミーゴ・デ・川俣」の皆さんへ



フィナーレ「歩こう」を参加者と会場の皆さんで
大合唱



コンサート終了後、会場出口で観客をお見送りする
「アミーゴ・デ・川俣」



「アミーゴ・デ・川俣」のフォルクローレ演奏

◆実施に伴う効果

- (1)「アミーゴ・デ・川俣」の齋藤氏より感謝の手紙をいただきました。その中から。「(川俣の子供たちは)広島から帰って以前より数段元気にそして大人になった気がします。」(広島の皆さんの)気持ちが子供たちに伝わり、その気持ちを忘れることなく感謝の気持ちを持って育ててほしいと願っております。「今回広島に行った子供たちが同じ年齢になった頃、広島の子供たちを、美しくなった福島に、コスキン・エン・ハボンに招待してくれることを願っております」「これからもいつまでも忘れることなくお付き合いをしていただきたいと思います。」以上のように川俣町との信頼関係ができたと思います。
- (2)夢コンサートの観客アンケート・・・子供たちの健気な歌声、力強く美しい演奏、一生懸命な震災にむけた取り組み、これらが観客の心を動かし、人々の心に暖かい灯がともるようなコンサートとなり、日本社会に希望を持つという感想に結びついたのでと思います。人と人がつながることの素晴らしさ、両県の子供たちが頑張る姿を見てここから思いやりの心や前向きの気持ちが出てきて未来に夢をつなげたと思います。

◆苦労した点

- ・音楽を通じでの支援ということで1年8ヶ月かけて3回ホールでのコンサートを行い、寄付金を呼びかけたり、資金を集めてきました。結果としてPRはできたようですが、コンサート集客などに多大の労力と時間をかけても、目標額は集まらず、助成金申請に切り替えました。不慣れなために助成金申請も時間をかけ苦労しました。
- ・震災という大きなテーマですがこれに関わっていこうという人達は少ないだけでなく、関わった人達も心が揺れ動いているようでした。協力してくれている人たちは長年の音楽を通してできた関係の人たちが多く、それ以外の人たちが寄付をしてくれたりというのは長い間頑張っても増えませんでした。
- ・集客をするため、各学校への配布、新聞社、情報誌、ミニコミ、放送局、あらゆる手段を投じましたが、時も経ったのもあるでしょうが集客の結果を見てみると関心の低さを痛感しました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・今回できた川俣町とのつながりを大切に、放射能に不安を持つ人たちが何を望むかを考えながら、新たな目標を設置して、計画を立てたいと思っています。
- ・今回参加した子供たちの成長も見守りたい。
- ・いずれにしても音楽の力というのはとても大きいと思いますので、それを生かした活動をしていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

最後の最後で報われました。人と人が音楽でつながりました。達成感があります。苦労した甲斐がありました。マツダ財団さんには信頼していただき、ありがとうございました。気持ちよく助成金を使わせていただきました。